



高座環境通信

【第2号】
平成16年11月9日
編集発行：高座清掃施設組合
施設課 ISO担当



ISO14001を認証取得

地域とともに環境保全

ISO14001とは

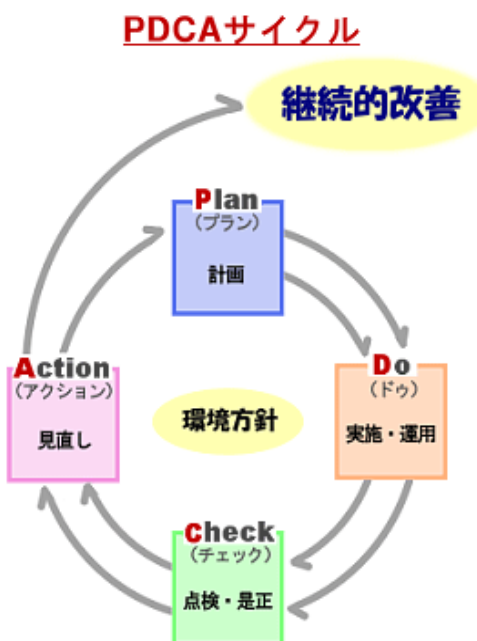
近年、二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化、木材伐採等による森林破壊など地球規模の環境問題が発生しています。このため、地球環境を保護する目的で、1992年にブラジルで開催された「地球サミット」をはじめ数々の国際会議が開かれました。

この中で環境問題を継続的に改善していく国際的取組が必要となり、このためISO（国際標準化機構）に対し環境に関する国際標準化への取り組み要請があり、「ISO14001」が制定されました。

「ISO14001」とは、公共機関や企業が自主的に環境問題に取り組み、継続的に改善し、実行していくための管理システムの国際標準規格です。

これは、①環境方針②計画（Plan）③実施と運用（Do）④点検と是正措置（Check）⑤経営層による見直し

（Action）の5段階のシステムを策定し、左図のようにPDCAサイクルを繰り返しながら改善を図っていくものです。



審査登録機関の代表（左）から登録証を授与される小林章夫高座清掃施設組合事務局長（右）

認証登録日 2004年10月20日
登録番号 EC04J0298

ISO14001登録証を授与

平成16年11月5日（金）午前10時より組合会議室においてISO14001登録証授与式が挙行されました。

登録証授与式には高座清掃施設組合長の内野優海老名市長を始め、組合議会議長の曾根寿太郎座間市議会議長、さらには地元海老名市本郷の池亀健自治会長、藤沢市宮原の椎野幸一自治会長及び地元関係団体の代表者の方々の他、構成三市の関係職員など多くの来賓がお祝いに駆けつけてくださいました。

授与式では審査登録機関である（株）日本環境認証機構の今田明理事から当組合の環境管理統括者である小林章夫事務局長に登録証（右の写し）が授与されました。

また、小林環境管理統括者より今後に向けた決意が表明され、組合を代表して内野優組合長（海老名市長）よりこれまでの経緯を踏まえ、気持ちも新たに環境マネジメントシステムの向上に努力していく旨が語られ、曾根議会議長をはじめ多くの出席者から暖かなお祝いの挨拶をいただきました。



高座清掃施設組合
神奈川県海老名市本郷1

登録証
ISO 14001:1996・JIS Q 14001:1996

一般廃棄物の中間処理及び焼却余熱を利用した温水プール、老人センターの管理運営

登録番号 EC04J0298 登録日 2004年10月20日 有効期限 2007年10月19日

貴組織の環境マネジメントシステムは、JACOの環境マネジメントシステム審査登録制度に基づいて審査した結果、上記登録範囲で適用規格に適合していることを証します。

発行日 2004年10月20日

株式会社 日本環境認証機構
代表取締役社長 伊藤信久

本証は登録証の一部ですので、付属書と合わせてご覧ください。

認証マークについて

ISO14001を認証登録された組織は右下の認定マークを使用することを許可されます。

マークは左から【JAB】：日本適合性認定協会の略。日本の認定機関です。

中央【JACO】：（株）日本環境認証機構の略。審査登録機関です。

右側【UKAS】：United Kingdom Accreditation Serviceの略。英国の認定機関です



本審査の結果について



審査員による本審査風景

平成 16 年 9 月 16 日・17 日に審査登録機関である(株)日本環境認証機構の審査員 2 名による本審査が実施されました。審査は初日の 16 日は書類を中心とした環境マネジメントシステムの有効性審査が行われ、17 日は現場(部署)でシステムの確立、実施、有効性、管理状況などの審査が行われ、その結果以下 5 点について指摘があり

り「観察」*1の評価を受けました。

- ① コミュニケーション受付記録が苦情及び提案に限定されている。規格では「外部の利害関係者からの関連するコミュニケーション」と定められている。
- ② 法規制値に対して自主規制値を定め運用を開始している。早期に運用手順にオーソライズ(公認)すること、及び設定値も実力値との理論的な関係設定が望まれる。
- ③ 最終処分委託先への処分・再生の実施状況確認を実施され報告書を作成しているが、結論の「問題なし」では実態が不明確。何を調査し、何に問題がないのか不明。
- ④ 3ヶ月ごとに行っている環境管理統括者への報告は、目的・目標の達成状況を適正に表現していない。
- ⑤ 内部監査の報告で、定められた様式以外の文書が使用されている反面、手順で定められた総括意見が添付されていない。

*1:「観察」とは【ISO14001 規格に適合しているが改善を推奨】するという審査登録機関(株)JACO)の所見のひとつで、指摘事項の中では最も軽いものとされています。その他「軽微な不適合」(要求事項に不適合であるが軽微)、「重大な不適合」(規格重要要件に欠落、違法違反、PDCAの機能が動いていない)などの所見があります。

認証取得は職員の手づくりで

認証取得のための準備は、現在多くの組織で第三者の機関(コンサルタント等)にお願いしています。

しかし、当組合では ISO14001 を既に認証取得済みの先輩組織であり、構成市でもある海老名市環境保全課の ISO 担当に指導を仰ぐことにより、環境マネジメントマニュアルの研究、作成、職員研修などほとんどすべてを組合職員自らの手で行いました。

このため、経済的な面はもちろん、より組合の実態に則した環境マネジメントシステムが出来たと自負しています。



職員による自主騒音・振動調査風景



高座清掃施設組合では、9月16日・17日の本審査の結果、審査登録機関の判定委員会により、10月20日環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得しました。

現在の地球環境においては、温暖化や有害物質による環境破壊といった人類の存続にもかかわる多くの環境問題を抱えています。

高座清掃施設組合は廃棄物処理施設としての立場から地域と地球環境問題の改善に積極的に取り組んでいきます。その基本となるのが今回構築した当組合の ISO14001 環境マネジメントシステムです。

今後はこの環境マネジメントシステムの適正な運用管理はもとより、さらにこのシステムを充実、発展させ、良好な地球環境の次世代への継承と持続可能な資源リサイクル型社会の実現を目指して、先進的に環境問題に取り組んでいきます。

認証取得までに歩んだ道

高座清掃施設組合は亀井英一前組合長(前海老名市長)が ISO14001 認証取得を表明、平成 15 年 2 月 1 日施設課内に専属の ISO 担当を設置し 2 名の職員を配属し準備にあたらせ、同年 4 月 1 日「高座清掃施設組合環境管理組織に関する要綱」を施行すると同時に環境管理組織を立ち上げました。同年 6 月 23 日「ISO14001 認証取得に向けてのキックオフ大会」を挙行し、内外に向けて高座清掃施設組合の環境保全に向けた取り組みと役割を表明するとともに、平成 16 年度中の ISO14001 認証取得を宣言しました。同年 12 月 15 日に環境方針並びに環境管理マニュアル(第 1 版)を制定し、同日システムを稼働させ、以後マニュアルに沿って職員に対する各種研修等を実施しました。

平成 16 年 3 月には内部環境監査を実施。その結果を踏まえ 4 月環境管理統括者によるシステムの見直しを行い、5 月環境管理マニュアルの改定(第 2 版)を実施しました。

その後、平成 16 年 5 月 18 日に審査登録機関による予行審査、7 月 15 日・16 日の初動審査、そして 9 月 16 日、17 日の本審査を受けました。この結果(左ページの 5 点の指摘事項)を踏まえて、審査登録機関による判定委員会が 10 月 20 日開催され、取得が認められました。

認証取得にはこんな効果が

環境マネジメントシステムでは、組合の環境問題に取り組む姿勢を環境方針として表し、この方針に則り環境目的・目標を設定し、具体的に取り組みの成果を達成することが求められています。この環境管理システムにより環境問題に対し、より実効性が上がり、次のような効果が期待できます。

①安全性の確保

ごみ及びし尿処理施設の安全で効率的な運転を維持管理するとともに技術の向上が図られ、併せて作業環境の安全性が確保できます。

②組織への効果

国際的な規格の取得により、全職員の環境問題に対する意識が向上します。また、経営管理手段の導入による効率的な行政運営の実現と施設運営における省エネ、省資源活動により、中・長期的な施設運営経費の削減が可能です。

③地域社会への波及効果

組合が率先して取得したことにより、管内の廃棄物処理業者ら各種企業や住民の皆さんの環境に対する意識の高揚と廃棄物の排出抑制や資源循環につながります。また、近隣住民の方々には、ダイオキシン等有害物質の排出等の徹底した抑制や施設管理、さらに積極的に環境情報を発信することにより互いの信頼関係を再構築することとなります。

